CALETによる電子観測

2013.8.22 赤池陽水

@乗鞍観測所

電子のエネルギースペクトル

電子 + 陽電子のエネルギースペクトル



- □ 数100GeVの領域に標準的な伝播モデルからの過剰な 成分がある
- ATIC, Fermi/LAT, HESSなどの各実験の観測結果には、統計誤差以上の差が存在する
- □ 電子の起源を探るためには、精確なエネルギースペクト ルの導出が必要

陽電子 / (電子+陽電子) (AMS02)



- □ 10GeV以上で増大
- 陽電子が伝播中に生成されるモデルでは説明できない
- 陽電子の加速源が必要
 - 暗黒物質?
 - パルサー?

AMS-02による電子+陽電子のエネルギースペクトル



電子成分

高エネルギー宇宙線電子・陽電子の観測は、 宇宙物理学における最大の謎である暗黒物質及び宇宙線加速源の解明につながる



近傍加速源からの電子寄与のモデル依存性



Do=5 x 10²⁹ cm²/s



Ec= 20 TeV



Ec=20 TeV, $\Delta T=10^4$ yr



Kobayashi et al. 2004

電子観測における検出器の性能要求

電子観測の現状:

■ 各観測結果に統計誤差だけでは説明できない差異

■ TeV領域はほぼ未観測

- 電子観測の困難:
 - Flux自体が希少

~ 5 イベント / m²sr day (> 1TeV)
 ■ 膨大な陽子バックグラウンド
 電子:陽子 = 1: 100 @10GeV
 電子:陽子 = 1:1000 @1TeV

- 電子観測のための必須事項:
 - 大きな検出器による長期間観測

~270 m²sr day ⇒ 約1000例 (>1TeV) 協力な粒子識別能力 10⁵ @ TeV

■優れたエネルギー分解能 数%(数100GeV領域)





Energy Resolution vs. DM Sensitivity



arXiv: 0812.4200[astro-ph] C.R.Chen et al.

CALET計画

CALET: CALorimetric Electron Telescope





カロリメータ概要



	CHD (Charge Detector)	IMC (Imaging Calorimeter)	TASC (Total Absorption Calorimeter)
Function	Charge Measurement (Z=1-40)	Arrival Direction, Particle ID	Energy Measurement, Particle ID
Sensor (+ Absorber)	Plastic Scintillator : 14 × 1 layer (x,y) Unit Size: 32mm x10mmx450mm	SciFi: 448 x 8 layers (x,y) = 7168 Unit size: 1mmsq x 448 mm Total thickness of Tungsten: 3 r.l.	PWO log: 16 x 6 layers (x,y)= 192 Unit size: 19mm x 20mm x 326mm Total Thickness of PWO: 27 r. l.
Readout	PMT+CSA	64 -anode PMT+ ASIC	APD/PD+CSA PMT+CSA (for Trigger)

検出イメージ

Gamma-ray

Electron 1TeV

proton 10TeV



電子陽子識別



検出器の種類と粒子識別

Magnet Spectrometer(PAMELA, AMS)

 マグネットと、電磁カロリメータの組み合わせで粒子識別
 ⇒ ΔR/Rは、BL²に依存
 Pamela: MDR ~ 1TV (SΩ~21cm²sr : < 500GeV)
 AMS-02: MDR ~ 2TV
 MDR: Maximum Detection Rigidity



- Calorimeter(ATIC, Fermi, CALET)
 - シャワー形状で粒子識別
 - ⇒ 識別能力は、物質量に依存

ATIC: 22r.l. (~10⁴)

Fermi: 8.6r.l. (~10⁴) CALET: 30r.l. (~10⁵)





AMS-02 の陽子除去

TRD: Transition Radiation Detector

誘電率が異なる物質の境界を荷電粒子が通過する際、X線を放射する

発光量はγに比例

⇒ 高エネルギー領域では飽和するため、有効で なくなる

Tracker & ECAL

運動量pとシャワーエネルギーEの相関からハドロン 成分を分離する(ハドロン成分のmfpは長い)



⇒ 陽子除去性能の上限は、運動量の測定上限で決まる

観測エネルギーの上限は~1TeV程度



Fermi/LATとCALETの比較

Proton rejection power depends

fully on simulation by using

CALETは電子観測に最適化された装置であり、FERMI/LATが不可能なTeV領域の観測が可能であるだけでなく、TeV以下でもはるかに優れた性能をもつ。



電子観測による近傍加速源探索



電子成分の異方性観測



プロトタイプ検出器による開発・性能評価

気球実験・加速器実験を通して、開発要素の技術実証、性能評価を実施

- 2006気球実験(bCALET-1 @三陸)½プロトタイプ検出器
- 2008加速器実験(東北大核理研)GeV領域ガンマ線の観測性能
- **2009** 気球実験(bCALET-2 @大樹町) ½プロトタイプ検出器
- **2010** 加速器実験(CERN-SPS) µ粒子、電子の観測性能
- **2011**加速器実験(HIMAC) CHD. SciFiの電荷分解能
- **2012** 加速器実験(CERN-SPS) 山粒子、電子、陽子の観測性能
- 2012加速器実験(CERN-SPS)µ粒子、電子、陽子の観測性能熱構造モデルによる性能検証
- **2013** 加速器実験(CERN-SPS) 原子核の観測性能





シミュレーションが観測結果を再現することを確認できた

軌道上における検出器較正



検出器較正に利用するイベント選別

検出器較正に利用できるイベント条件
 ① 幾何条件を満たす(飛跡がPWOを通過)
 ② 検出器中でシャワーを起こさない
 ③ 検出器中で止まらない





トリガーレート

陽子のエネルギースペクトル(AMS-01)



トリガーレート(2次粒子を含む)の強度分布





まとめ

- 宇宙線電子成分は寿命が短いことに由来して、近傍加速源の影響がエネルギースペクトルに反映される
- CALETは電子観測に最適化した検出器である
 - 測定領域: 1GeV 20 TeV
 - エネルギー分解能~2% (>100GeV)
 - 陽子除去性能~ 10⁵
- CALETの観測精度はシミュレーション計算や加速器実験で 検証を行っている
- 2014年度に打ち上げ予定

END